

## 概要

### ◆氏名・所在地

星野 秋 新潟県新発田市

### ◆研修年

令和4年8月～令和4年10月 : 野菜農家  
令和5年5月～令和6年5月現在 : 果樹農家

### ◆研修内容

ぶどうのハウス栽培や野菜の露地栽培の研修に取り組む。



研修受入農家の高橋健太氏（左）と研修生の星野秋氏（右）

## 1

### 就農相談までの背景

転職先を検討している間に、中山間地にいる親戚の自家栽培の畑を手伝いながらハローワークに通っていた時、同じ中山間地でぶどうやりんごを栽培する農家がいることを知った。以前から果樹栽培に興味があり、農地さえ確保できれば自分でも果樹経営ができるのではないかと思い、ハローワークに相談したところ「新潟県農業経営・就農支援センター（旧青年農業者等育成センター。以下「支援センター」という。）」を紹介された。

## 2

### 相談内容

体験研修が可能な受入先農家や栽培品目等について相談したところ、農業体験したいと考えていたぶどうやりんごを栽培する中山間地の果樹農家を紹介されるが、時期的に体験する作業が無いということで断念し、別に紹介された野菜農家の下で栽培研修をした。

しかし、研修後も果樹農家で研修したいという気持ちが変わらなかったため、普及指導センターに相談したところ、支援センターを通じて、令和5年5月から希望した果樹農家で研修を開始した。

## 3

### 支援内容

#### ●農地利用や生活面の相談対応

農地取得や資本装備、就農計画作成について、関係機関連携のもと、相談対応を行った。

#### ●研修機関等の紹介

自宅から通える果樹農家で研修したいという要望であったが、季節的に作業がなかったため、野菜栽培農家を紹介し、約3か月間研修することとなった。

翌年の春、相談者から果樹農家の下研修したいという申し出があり、研修の受入を調整し、現在果樹農家の下でも研修している。

#### ●関係機関との連携による取組

ぶどうの栽培技術習得のため、普及指導センター主催の経験の浅い農家向けの講座を紹介し、現在も受講している。

農業簿記や経営の能力向上も希望しているため、今後は、県や農業係団体主催の能力に応じた研修を紹介していく。

#### ●就農市町村の決定

農業委員会との相談により、農地の貸借について一部内諾を得ているため、相談当初から希望しており現在の居住地でもある新発田市での就農を予定している。



研修受入農家とぶどうの本摘粒作業



一房々々丁寧に作業を行う様子

### 今後の意気込み

現在も引き続き研修受入農家で果樹等の栽培研修を受けながら農地の賃借のために農業委員会に提出する書類の準備を進めています。

農地面積が確定したら青年等就農計画の作成に取り掛かり、令和7年4月の就農を目指します。

### 専属スタッフ所感

就農相談に訪れる方の多くは、まったく農業の経験がありません。そのような方には、まず、農業体験をおすすめしています。しかし、稲作が主体で、冬期間、積雪により野外での農作業が出来ない当県においては、思い立って、直ぐに農業体験をするということが出来ない場合があります。

まずは、何をどこでしたいのか。そのために何から始めるのかを明確にして、それを実践すれば、就農への第1歩がスムーズに歩みだせると思います。



研修で白ネギの生育状況を確認する高田華衣氏（右）

## 概要

### ◆氏名・所在地

高田 華衣 富山県富山市

### ◆研修開始年

令和6年4月

### ◆研修内容

とやま農業未来カレッジ（以下、「カレッジ」という。）にて1年間、栽培技術や農業経営などの講義、作物実習、機械演習等に取り組む。

## 1

### 就農相談までの背景

学校卒業後、派遣労働者として工場で働き始めたが、アパートと会社の往復のみの生活で、人と会話することも少なく、単調な生活に悩んでいた。

そんな時、幼少期の祖父とのタケノコ掘りや畑作業が楽しかったことを思い出し、農業に関心を持つようになった。その後、市民農園等に参加するが、日ごとに農業への思いが強まり、SNSで情報を調べたところ、とやま就農ナビを見つけ、「富山県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」に相談をした。

## 2

### 相談内容

農業に強いあこがれを持つが、農作業の経験は趣味程度であった。このため、①どうすれば農業の知識を高め、職業としての農業をはじめられるか、②小さい子供がいるが、就農に向けた研修などに参加することが可能かなど、細かいことまでさまざまな相談を行った。

## 3

### 支援内容

#### ●就農に向けた相談対応

就農専属スタッフより、参考となる成功事例の紹介、研修制度や研修期間中の支援策等を説明した。

#### ●農業体験研修で「農業を知る」

農業へのチャレンジに失敗しないためには、農業とはどういうものかを知ることが大切との考えから、「農業とはどんな仕事であるか」や「就農に向けどんな準備が必要か」を知っていただくため、短期間の就農体験を紹介した。相談者は施設園芸農家で5日間、収穫・調整作業などを体験し、就農への思いが強まった。

#### ●とやま農業未来カレッジでの

#### 体系的知識・技術の習得支援

農業経験や知識のない方でも、農業法人に就業し、OJT研修で技能を身に付け活躍される方も多くいるが、相談者は、自営を含めたいろいろな可能性を検討したいとの希望があった。このため、体系的に知識と技術が学べるカレッジでの通年研修を勧め、座学講義のほか、栽培実習や農家派遣研修、機械演習などにより、基礎的・実践的な知識と技術の習得を支援している。

#### ●関係機関と連携した就農支援

カレッジ卒業後の就農に向け、就農専属スタッフ等がカレッジと連携して、本人の意向を踏まえつつ、就農計画の実現性を見据えた助言を行うなど、就農の定着が図られるよう支援している。また、就農先や農地の確保等については、カレッジのほか、農林振興センターや市町村等と連携を密にし、関係機関が一体となってサポートしていくこととしている。

### 今後の意気込み

相談前は、農業に詳しい知人もおらず、SNS等で情報収集していましたが、自分だけの情報収集には限界があり、就農には程遠い状況でした。しかし、何度も就農相談することで、就農に向けた道筋が明らかとなり大変助かりました。

成功事例を学べたほか、カレッジでの研修を勧められるとともに、その間の生活支援策等の情報も得られたことが、カレッジ入学への決め手となりました。

カレッジでは、志を同じとする仲間にも恵まれ、協力し合い知識・技術を高めていきたいと思っています。

子供も自然が大好きなので、いずれ一緒に農作業ができる日を目標に頑張っていきます。



カレッジでの実習の様子

### 専属スタッフ所感

支援センターでは、随時、就農専属スタッフが、農業経験の状況や相談者の希望なども踏まえ、相談に応じています。

相談者は、就農に向けカレッジの研修に意欲的に取り組んでおり、農業が職業となり、地域農業の担い手となるよう、関係機関と連携し、就農をサポートしていきます。

## 概要

### ◆氏名・所在地

木村 鳳喜 石川県羽咋市

### ◆就農年

令和6年4月

### ◆経営規模

すいか0.6ha、だいこん0.6ha

### ◆従業員数

なし

### ◆事業内容

すいか・だいこんの栽培に取り組む。



木村鳳喜氏

## 1

## 就農相談までの背景

前職では飲食業に携わってきたが、妻から「農業経営を行い、将来的には自身で栽培した野菜を提供する飲食店を開くのはどうか」という話があり、食に関わっていたことから農業に大きな魅力を感じ、本格的に就農を考えるようになった。

妻の実家がある石川県には、就農希望者に必要な技術や知識を習得できる「いしかわ耕稼塾」があるということを知り、開講者の「石川県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」の就農相談窓口である（公財）いしかわ農業総合支援機構に相談した。

## 2

## 相談内容

「石川県羽咋市で農業を始めたい」と大まかな構想があったので、自分なりに情報を集め、就農品目を羽咋市の主要野菜であるすいかとだいこんに決定した。

しかし、農業の知識がほとんどなかったので、技術面や資金面の課題に加え、本格的に営農を開始するまでの研修計画や生活資金面について相談したい。

## 3

## 支援内容

### ●いしかわ耕稼塾での研修

いしかわ耕稼塾「本科」※に入塾し、栽培実習や講義（栽培・経営）等を通じて、自営就農に必要な基礎的な技術や知識の習得を図った。

※月～金曜日まで、年約240日間、栽培実習や講義を受ける研修コース。

### ●関係機関との連携による取組

支援センターは、支援センターのサテライト窓口である普及指導センターやJAはい、市役所といった関係機関と研修生の意向を共有しながら、関係機関と協力してJAはいくそい部会（以下「部会」という。）への受入れに向けて働きかけを行った。その結果、JAはいくそい部会において農家派遣研修を実施することとなった。



関係機関と産地での受け入れに向けた打ち合わせ

### ●農地の確保支援

当初、農地の確保は困難であったが、農家派遣研修を契機に部会とつながり、相談者の受入れに合意が得られた。その後、徐々に人脈ができ、部会役員が地権者との調整役を買って出ることになり、一部の部会員から農地の利用権を譲り受けることができた。

### ●機械の導入支援

補助事業を活用して機械を導入するにあたって、普及指導センターの普及指導員から営農計画等のアドバイスを受けながら、羽咋市役所等に相談し、事業活用をサポートした。



支援事業活用のための打ち合わせ

## 今後の意気込み

就農までにすべきことが多く、実際に支援センター等の支援機関に何度も訪れて相談したことで希望した時期に就農することができました。

農業経営はまだ手探り状態ではありますが、就農後も経営相談を通じて関係者の方に助けていただくことも多く、大変感謝しております。

## 専属スタッフ所感

外部からの自営就農は、経営開始に向けた準備に加え、部会や産地への受入れを並行して進める必要があり、関係機関との連携が必須です。基本的な技術や知識を研修で習得しながら、就農地の状況に合わせてアレンジする作業は、経営継続にもつながると思います。

相談者は、就農への熱意があり、こちらからの支援に対しても意欲的に取り組まれていました。

産地の担い手となっていただけるように、今後も関係機関とともに、引き続きフォローしていきます。

## 概要

### ◆氏名・所在地

和多田 裕己 福井県三方上中郡若狭町

### ◆就農年

令和6年4月

### ◆経営規模

ウメ 1.8ha

### ◆従業員数

パート・アルバイト 5名

### ◆事業内容

青梅の栽培出荷、白干梅・梅干しの加工に取り組む。



ウメの土用干しをする和多田裕己氏

## 1

## 就農相談までの背景

会社員として勤めていた頃に、同級生が梅農家として活躍している話を聞き、就農への思いが芽生えた。約3年間、同級生のお手伝いをしながら栽培技術を学ぶとともに借り受けることができる樹園地を探し、確保する見込みが立った。就農準備は整いつつあったが、経営開始に必要な知識や就農計画に不安があったため、同級生から「福井県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」を紹介してもらい、相談した。

## 2

## 相談内容

経営開始にあたって、簿記や青色申告等の作成に不安があるため、会計・税務処理など経営管理の基礎的な知識の習得方法を知りたい。  
また、就農計画作成方法や加工品（梅干し）の直販方法、生産安定のための主要技術となる剪定方法について学びたい。

## 3

## 支援内容

### ●営農開始に向けた相談対応

経営管理について、簿記記帳の知識を習得するための研修の受講や農業会計ソフトの活用を提案した。また、就農計画について、希望所得に準じた経営規模に見直しするよう、経営規模の拡大や設備投資計画作成等を助言した。

### ●関係機関との連携による取組

規模拡大に向けた樹園地の確保や、農業機械の更新に活用できる融資について、町やJAから情報提供を行った。今後、規模拡大を行うにあたって必要となる雇用の確保や新規就農者向けの補助事業の活用について、支援センターから説明を行った。

### ●加工品販売や生産技術習得に向けた支援

梅干しを高価格で販売していきたいという構想があったが、梅干しの製造には漬物製造業の営業許可が必要であることや、販路がないことから、まずは許可が不要な白干梅のJA出荷に集中し、その後、独自性がある梅干しの販売の経営にシフトするよう助言した。  
生産技術について、普及指導員が剪定技術を現地で指導した。



相談対応の様子



剪定講習の様子

### 今後の意気込み

支援チームの皆さんのおかげで、充実した就農計画の作成や経営管理の手法について習得することができました。経営開始に対する不安はまだ大きいです。支援チームの普及員さん、町の就農担当者さん、JA営農指導員さんからたくさんの助言をいただき、大変感謝しております。経営が安定していくよう最大限の努力をしていきたいと思えます。

### 専属スタッフ所感

福井県若狭町では、福井梅産地の担い手確保のために、新規就農の受け入れ体制整備等に力を入れています。  
今回のケースが就農モデルとなり、福井梅の担い手確保が進んでいくよう、相談者の就農後のサポートをチーム一丸となって取り組んでいきたいと思えます。